

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施 自治体名	課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために 令和7年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現 状 の 数	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)	目標等の公表先
下仁田町	①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	社会に開かれた教育課程の実現に向け、地域素材や人材を活用した教育課程の定着が課題。	学校の授業支援や見守り活動等多くの住民の参加があり連携が進んでいる。今後はこれらの連携が定着・発展していくことを目指す。	・地域学校協働活動の周知・普及のため町内にある各団体に声をかけ見守り活動を実施する。 ・コーディネーターは、定期的に学校訪問し学校と地域に連携調整等を担う。 ・推進の配置に向け情報収集を行う。	地域との連携・協働が進み、地域の人的・物的資源を活用した事業や授業が充実し、ふるさとを愛する児童生徒の育成が図られる。	ふるさとに愛着を持つ児童生徒の割合	77	%	80	81	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた。 地域との連携・協働の定着が進み、授業での地域学習が充実してきた。ふるさとを愛する児童生徒の割合が向上したと考えられる。	下仁田町役場ホームページ https://www.town.shimonita.lg.jp/kyouiku/m02/m03/m01/houkagokodomokyoushitsu.html
下仁田町	③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	1日あたり3名のスタッフで教室を運営しているが、スタッフ間で、子どもたちとの関わり方に対する意識の格差があり、子どもたちの活動が管理されている傾向にある。教育委員会・学校が目指す非認知能力の育成の視点を踏まえた教室運営をスタッフと共有できていないことが課題である。	令和6年度に放課後子ども教室のあり方についてスタッフを対象とした研修を1回開催した。	・子どもたちが運営に参画する環境づくりに取り組むことを児童・保護者・スタッフと共有し、取り組みの1つとして「子ども会議」を年間4回以上実施し、事業に反映する。 ・子どもたちの参加確認とスタッフの勤怠管理を行うため、入退室管理システムを導入し、確認作業に費やす事務作業時間を削減し、子どもたちと関わる時間を確保する。 ・スタッフ研修を年間3回以上実施する。研修後はアンケートを実施し、結果からスタッフの意識変容を把握し、次回以降の研修内容に反映する。	放課後時間の過ごし方を自分で考え、自分で決めることができる児童が増える。	アンケートによる児童の10段階評価平均満足度	8	その他	9	9	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた。 アンケート結果において10段階評価の平均値が9.03であることから放課後子ども教室で過ごす児童の利用満足度は高いと言える。活動時の児童から「放課後子ども教室でやってみたいこと」を提案してくれる頻度が増えた印象にあることから、放課後時間の過ごし方を自分で考えることにつながっているといえる。	下仁田町役場ホームページ https://www.town.shimonita.lg.jp/kyouiku/m02/m03/m01/houkagokodomokyoushitsu.html